

氏名(本籍)	岩崎 まり子 (茨城県)			
学位の種類	医学博士			
学位記番号	博甲第562号			
学位授与年月日	昭和63年3月25日			
学位授与の要件	学位規則第5条第1項該当			
審査研究科	医学研究科			
学位論文題目	分娩発来機序における自律神経機能の関与に関する研究 (心電図からみた妊婦の自律神経機能) (dissertation形式)			
主査	筑波大学教授	医学博士	伊藤	巖
副査	筑波大学教授	医学博士	熊田	衛
副査	筑波大学教授	医学博士	澤口	重徳
副査	筑波大学教授	医学博士	成田	光陽
副査	筑波大学助教授	保健学博士	加納	克己

論文の要旨

〔目的〕

妊婦における自律神経系の活動状態を知るとともに、分娩発来機序にそれがどのように関与しているかを解明せんとした。

〔方法〕

1. 初産婦112例および経産婦234例についての陣痛発来時刻および分娩時刻を分析した。
2. 切迫早産に対する $\beta 2$ -stimulantの治療効果を、23例について観察した。
3. 妊娠・分娩経過中の自律神経機能を反映する指標として、心電図記録からR-R間隔の変動係数を求め、特に分娩発来前にそれがどのような推移を示すかにつき分析した。

〔結果〕

1. 陣痛発来時刻は、初産婦および経産婦のいずれにおいても、午前0時より6時までの時間帯に最も多いとの成績を得た。分娩時刻に関しては、特定の時間帯に多いという傾向が認められなかった。
2. 切迫早産に対して $\beta 2$ -stimulantであるritodrineを投与し、子宮収縮回数および強度の変化をみると、8時間後に23例中5例で軽減、6例でかなり軽減、12例で消失またはほぼ消失という成績が得られ、強力な子宮収縮抑制効果が認められた。

3. 妊娠中の心電図 R-R 間隔変動係数は、同年代の非妊娠婦人のそれより低値を示したが、分娩前 5～7 日および分娩前 1 日に有意差をもって高値となった。

〔結論〕

自律神経機能の指標としての心電図 R-R 間隔変動係数の分析により、分娩前 5～7 日および分娩前 1 日に副交感神経系の相対的優位が高まるという実態が証明された。陣痛が副交感神経優位と考えられる深夜に多く発来すること、交感神経刺激薬である rimdrine が強力な子宮収縮抑制作用を示すことを認めた成績と合せて、分娩発来機序に自律神経機能の関与が大きいことが示唆される。

審 査 の 要 旨

分娩発来機序に関しては、自律神経系が関与するとの考え方が有力であるが、内分泌説や機械的刺激説などもあり、なお定説が得られていない。

心電図 R-R 間隔変動係数が自律神経機能の指標となりうることは、糖尿病患者について認められているが、本研究はこの方法を妊産婦に応用し、分娩発来機序における自律神経系の関与についての新知見を加えたものである。分娩発来の予知に一つの手掛りを与える研究結果として、評価される。

よって、著者は医学博士の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。